

図 - 4 原子炉キャピティシール改造工事概要図

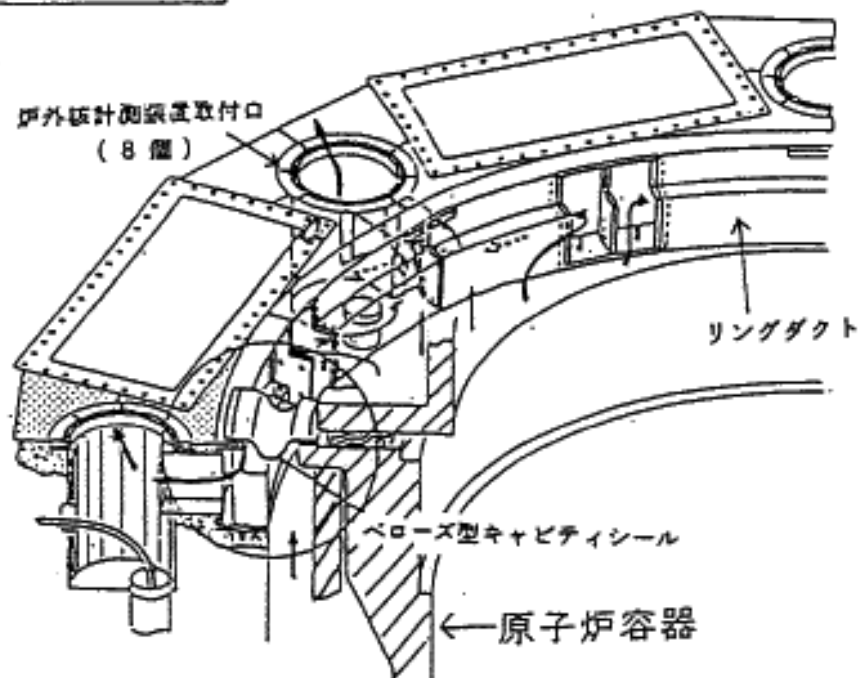
工事概要

現状のキャピティシールは平板型で、運転中は原子炉外周冷却風を通すための隙間を設けており、定検時はキャピティ水張りのため閉止する作業が必要で、定検工程のクリティカルとなっている。

このため、キャピティシールをペローズ型として恒設化することにより、閉止作業等を不要とし、定検作業の効率化と作業員の被ばく低減を図る。

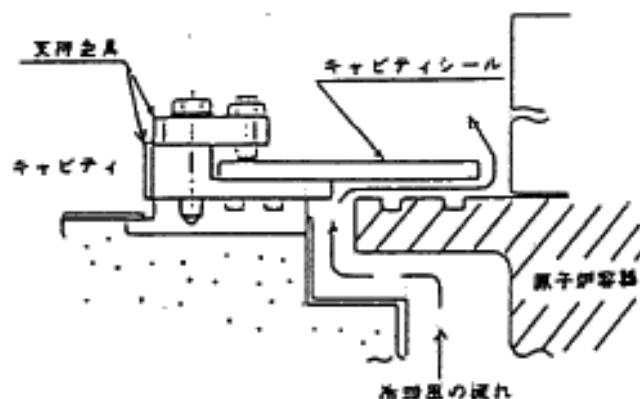
原子炉外周冷却風は、炉外核計測装置の取付口へ風路を設け、取付口側に通す。

改造後の概略図



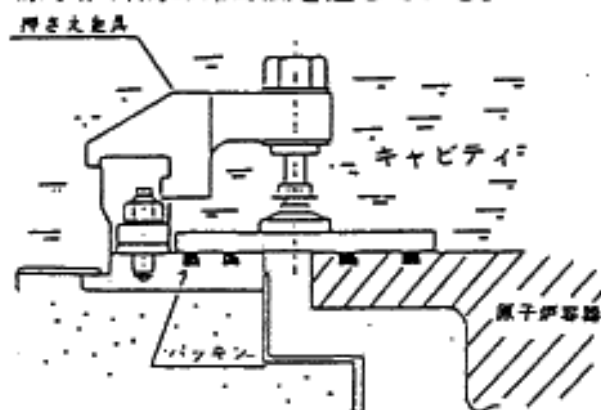
改造前

運転中

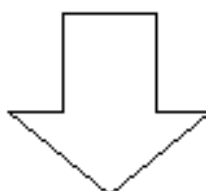


運転中はキャビティシールを少し浮かし、原子炉外周の冷却風を通してている。

定検時

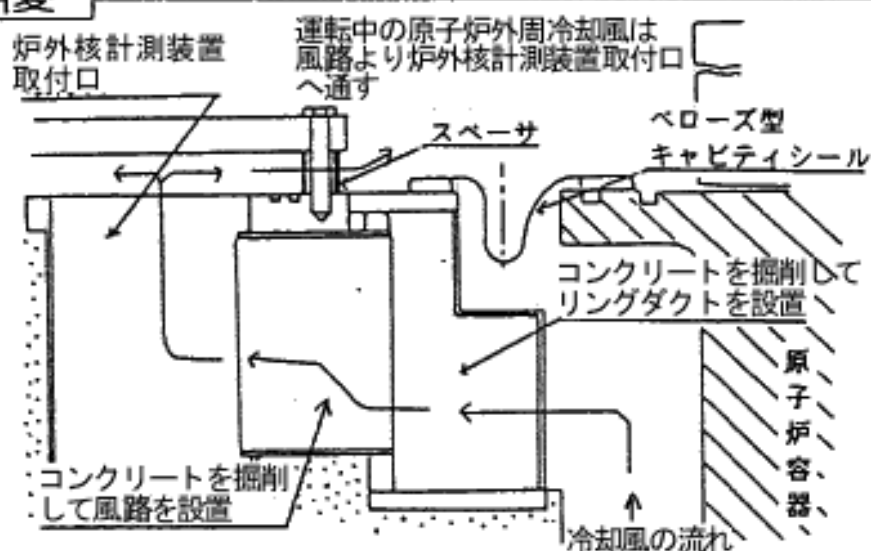


定検時は燃料取替のためキャビティに水を張るため、キャビティと原子炉間をキャビティシールにて閉止する。



改造後

運転中



定検時

